

会議録

会議の名称	第2回子どもの居場所部会		
事務局	子ども家庭部子育て支援課		
開催日時	令和4年11月21日（月）18時30分から20時06分まで		
開催場所	801会議室		
出席者	委員	部会長 萬羽 郁子 委員 職務代理 古源 美紀 委員 部会員 谷村 保宣 委員 宗片 匠 委員	
	事務局	子育て支援課長 秋葉美苗子 子育て支援係長 古賀 誠 子育て支援係 山下 真優 児童青少年課長 深草 智子 児童青少年係長 鈴木 拓也	
傍聴の可否	可		
傍聴者数	0人		
会議次第	1 開会 2 子どもの居場所について 3 閉会		
発言内容・ 発言者名（主な発言要旨）	別紙のとおり		
提出資料	1 資料7 子どもの居場所づくり事業 2 資料8 意見・提案シート		

第2回小金井市子どもの居場所部会

令和4年11月21日

- 萬羽部会長　それでは、ただいまから、第2回子どもの居場所部会を開催いたします。
- 今日は、栗田委員と奥村委員から欠席の連絡を頂いておりますので、御報告いたします。
- 次第の(2)「子どもの居場所について」を行います。前回に引き続き、子どもの居場所について審議したいと思います。初めに、事務局から資料を提出いただいておりますので、説明をお願いします。
- 子育て支援係長　資料7を御覧ください。この間の子どもの居場所づくり事業について報告させていただきます。令和4年9月26日に小金井市子どもの居場所づくり事業補助金申請の説明会を兼ねた連絡会を開催し、学習支援の居場所、自由な居場所を対象とした第1部に13団体、子ども食堂を対象とした第2部に6団体の代表者の方々に御参加いただきました。
- なお、この連絡会には、今年度の補助金申請を予定しておらず、今後、子どもの居場所事業の実施を検討されている団体の代表者の方にも御参加いただきましたので、それらも含めた団体数となります。
- また、令和4年9月13日から10月5日までを申請期間として、今年度の補助金申請を受け付けたところ、子ども食堂4団体、学習支援の居場所2団体、自由な居場所4団体から御申請いただき、受理した書類の審査等の手続を経て、今月、当初の予定どおり補助金交付の手続きを行いました。
- 事務局からの説明は以上です。
- 萬羽部会長　事務局から御説明いただきましたが、まずは資料について御質問等がありましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。
- 谷村委員　補助金の申請団体が4団体、2団体、4団体とあるんですけれども、今年度確保されている予算とあって、もう大枠決まっていらっしゃったりするんですか。
- 子育て支援係長　補助金につきましては、今年度新規の事業ということになりますので、年度当初にこちらのほうで補助金の説明会を行わせていただいたのと同時に、意向調査ということで、おおよそ補助金の申請をされている団体さんを把握するための調査を行いました。

その調査を行った結果、当初予算額よりもちょっと多くなる見込みということで、補正予算を行っておりますので、今回交付した団体さん分の予算を確保した上で、交付決定をさせていただいております。

○谷村委員 続けてなんですけど、いっぱい来たときは補正というので申請すれば、結構どうにかなったりするものなんですか。どのぐらいのバッファというか、余力があるのかというところを、ちょっとお伺いしたいなと。あまりないと。

○子育て支援係長 予算については、市全体の総合調整的なところもありますし、市議会で御議決していただく必要がありますので、なかなか我々のほうからはお伝えしづらいところであるんですが、ただ、基本的には、我々のほうとすると、昨年度に子どもの居場所に関して指針を定めて、今後、拡大していこう、居場所をどんと増やしていこうというふうなところでやっております。

当然、次年度以降に関しましては、今回御申請いただいていない団体さんも見据えながら、我々は次年度また予算要求すべきところは、予算要求をしていくというふうな考えでおります。

○谷村委員 そうすると、基本的に各団体がこの補助金というものを使いたいなというのを、話を聞きに来たところで次年度の予算というのをイメージして、確保していくというふうにならちょっと聞こえたんですけど。あくまで各団体がどれだけ要るかベースで予算を組んでいくイメージなんですか。

僕はちょっと逆のほうもあるかなと思って、こっちが何団体というイメージを先に持った上で、そこまで引き上げていくというやり方もあるかなと思ったんですけど、今のところでいくと、前者の申請団体に合わせた予算組というところで今は動いているという認識でいいですか。

○子育て支援係長 いわゆる予算の確保というふうなところですけども、我々のほうとすると、繰り返すことになってしまいますが、団体数を増やしていこうという考えはありますが、いわゆる実績等々を見ながら、予算要求というのをさせていただくというスタンスです。

○谷村委員 まずは、市場に委ねているところが大きいのかなという流れですかね。分かりました。

○宗片委員 今回、申請された団体さんもあると思うんですけど、申請に来た団体は大体補助金を交付されたんですか。そこではじかれた団体さんもいたりするんですか。

○子育て支援係長 今年度に関しては、御申請いただいた団体さんは、全て補助金申請額どおりに交付決定させていただいております。

多分、数日前に子ども・子育て会議の委員の皆様宛に、子どもの居場所事業補助金の交付決定をしましたということで、市のホームページの掲載の情報提供をさせていただいたかと思うんですが、市ホームページに出ている団体さんが御申請いただいて、交付決定させていただいているという状況です。

○宗片委員 連絡会に来たけれども、今回申請しなかった団体さんは、どういう理由で申請されなかったのか、御存じでしたら、ちょっと伺いたいです。

○子育て支援係長 個別に何か状況等々を伺ったわけではないんですが、いろいろと聞き及んでいるところによると、次年度以降に補助金交付申請するに当たって、いろいろと情報収集したい団体さんもいらっしゃいましたし、元々自分で活動されてる団体さんで、補助金の内容をいろいろ伺った上で、補助金を使わずに自分たちでやっていこうと御判断されたところもございます。

○宗片委員 では、そのほかで自分たちである程度自由にやりたいというときに、補助金の枠のつけ方で、条件が変われば、もっと使いやすいとか、使いたいという団体さんもいらっしゃるということでしょうか。

○子育て支援係長 そこまで個別具体的に伺っているわけではないんですが、もしかしたらそういったところもあるかもしれません。

今後の我々の予定というんですか、考えておりますのは、11月15日に補助金の交付決定をさせていただいておまして、連絡会とかで御意見を頂いているところもあり、そこはこの会議の中でも御紹介させていただいた、市のホームページ中のよくある質問ということで、どんどん情報を更新させていただいています。それとは別に、ちょっと個別に団体さんに当たっていろいろと考えております。

逆に言うと、大勢の場ではなかなか聞けないような御意見等々も頂く機会があるかなといったところで、そういった個別に団体さんと当たりながら、より活用しやすい補助金の在り方というのを一緒に考えていけたらなと考えていますが、すみません、ちょっとそこはこれからというところになってしまいます。

○宗片委員 そういった徐々に団体さんを増やしていく中で、使い道、どうするかとか、枠、多分量も、本当はもっとこれだけ枠があったら、こういう事業ができるねという事業者さんもいらっしゃると思うので、だんだんそういう声を聞いて、事業者が使いやすい補助金の形になっていくといいのではないかなと感じます。

○子育て支援係長 ありがとうございます。

○宗片委員　　すみません、追加の質問なんですけれども、団体登録するための条件とかもあると思うんですが、それはあまり詳しくなくて、例えばこういった個人の家庭で、じゃ、うちに子どもを連れて御飯を食べさせてあげましょうみたいなので、そういう活動をされている個人の方とか、あるいは少数の人数でやられている方とかって、市内にいらっしゃったりするんですか。

また、その登録されている方は、きっとちゃんとした団体登録されていると思うんですが、そうではない方とかっていらっしゃるんですか。

○子育て支援係長　正直、その個人といったところまでは、我々のところに何かしらの情報提供があれば把握できる機会はあるんですが、現状として今何か、そういった個人でといったところは、正直、分かりません。子ども食堂というふうな枠になりますと、どうしてもこの補助金を使う上では、個人の場合は5人以上の団体を作っていただくということもありますし、子ども食堂に関しては東京都の補助金をもらっている関係で、いわゆる保健所への届出等々も入ってくる部分がございますので、そういったところで、我々は子ども食堂の部分は情報は把握できるんですけれども、完全な個人で、補助金の枠外というのは、申し訳ないですが、なかなかちょっと把握は難しいかなと考えております。

○宗片委員　　ちょっと個人的に思ったところで、子ども食堂とかになると、先ほどの保健所みたいな届出もあるので、なかなか大変かと思うんですけど、子どもの自由な居場所みたいなので、うちの庭で遊んでいいよとか。そういう方がいらっしゃるか分かりませんが、例えばそういう方がいたときに、団体登録しないとできないと言われてしまうと、なかなかそういう活動もしづらだろうなと思っていて。

ちょっとそういうのも、現実的なのかどうか分からないんですけど、そういう、ちょっと個人で活動したい方とかというのを把握したりとか、あと、そういう活動していただけたらうれしいですと、市のほうからアピールするとか。そういうことをすると、今空き家がうちの近所もすごい増えているので、本当にそういう場所を使ってくれたらいいのかなと思いつつも、当然、所有者の方もいろいろ事情があるのでなかなか難しいと思うんですけど、市のほうからちょっとこういう勧誘とか、広報していただけたら、もうちょっと広まらないかなと思った次第です。ありがとうございます。

○萬羽部会長　　ほか、いかがでしょうか。今の話を聞いていると、やっぱり補助金がせつかくあっても、申請する方が決して多くはないのかなというところで、今後、少しでも増えるように見直していく必要性や、補助金じゃない方法での支援の仕方というものもあるのかなと

思ったので、どこかでそういうことを確認するような場が今後あるといいなというのを、ちょっと思ったところです。

あと、一方で、学習支援の居場所とか、自由な居場所というのに、本当に今年初めて補助金を出すというところで、まだ様子見の方もおられそうだったのかというか、何かその辺り、今後の見通しとして、もう少し増えそうだったりとか、初めてだったので様子見みたいなのところもあったのかなと思ったんですが、連絡会の雰囲気とか、いかがでしたか。

○子育て支援係長 すみません、完全に個人的な感想といたしますか、そのときの感触なんですが、やはり今年度については様子見のところもあったかなと感じているところです。実を言いますと、子ども食堂連絡会というのは毎年やっていたんですけども、そういったところでも、昨年度以前から御参加いただき、もともと子どもの居場所の何か活動をしようと考えていらっしゃった団体さんが、実際、今年度御申請いただいているようなところもあります。

逆に言うと、今回、連絡会に参加して御申請いただいていない団体さんとかが、次年度以降、補助金を活用されるのか、独自でされるのかと考えていかれるのかなといったところなので、個人的な感想になってしまいますが、ちょっと今年度は様子見のところが多分にあったのかなというふうに考えております。

○萬羽部会長 ほかはいかがでしょうか。

○宗片委員 子どもに対してアンケートみたいなものって、過去にとられたことはあるんでしょうか。どういう居場所が欲しいかみたいな、子どもオンブズパーソンとか、ああいうときにとっていたような気もするんですけど。そういった何かまとまった資料とか、ホームページにあたりするんでしょうか。

○子育て支援課長 子どもの居場所についてのアンケートというのは、今までとったことはないです。どういうふうに今後、居場所だけではないんですが、子どもたちの意見を聞いていくという機会はどういうふうにつくっていけばいいかなというところは、考えております。ちょっと先の話になりますが、次期計画策定のときには、やはり子どもたちの意見を聞くという1つの手法でアンケートもとったりしますので、その中に居場所的のところを問いかける質問をつくることができるのかは分からないんですが、何らか意見を伺うという機会には捉えていきたいなというふうには思っています。

○萬羽部会長 場所についての特化したアンケートではないけれども、以前の子どもを対象にしたア

ンケートの中で、割と自由な場所が欲しいとかというのは多かったので、それでこういう子ども食堂以外の支援をしようという話がありましたよね。居場所に特化したアンケートじゃないけれども。

○子育て支援課長　そうですね、居場所に特化したということではないですけども。子どもの自由記述だと、休みたいみたいな声結構多かったですよね。そうすると、やっぱり子どもたちがちょっとほっとできる居場所というか、そういったものが必要なんじゃないかというようなことも、居場所部会ができてきた発端というか、きっかけにもなっているところではあるので、今回も同じように、子どもたちのいろいろな声の中からそういったものが見えてくればいいかなというふうには思っております。

○萬羽部会長　利用されている方々にも少し機会があってもいいかなと思いました。ほかはいかがでしょう。お願いします。

○谷村委員　子どもの居場所紹介ということで、市のホームページのほうには載っているようですが、やはり情報として、子どもたちにもうちょっとストレートに届くというか、そういうような方策というのがあれば教えていただきたいと思います。

○子育て支援課長　居場所の紹介というところなんですけれども、昨年度から、小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会のほうで居場所マップを作っていたところがあります。それを、小学校低学年生にお配りしているということがありますので、地道ではあるんですけども、そのマップを更新できる情報があれば、直しつつ、お配りいただけるのではないかなというところで、1つ、手法としてはそういったものの活用というのも考えられるかなというふうには思っています。

あと、同じように、その協議会のほうで「えにえに」という居場所のサイトというのも設けておまして、そこへのアクセスというのはすごく多いというふうに伺っておりますので、そういったところでの情報発信。可能なものと可能ではないというものもあるとは思いますが、できる限りそういったようなものを使いながら、居場所の紹介というのができていければなというふうには思っております。

○谷村委員　ありがとうございます。

○萬羽部会長　ほかは、いかがでしょうか。

○谷村委員　すみません、今日の流れをちょっと確認させていただきたいんですが、今、居場所事業の団体の登録された、されないというお話があって、そこから流れでいろんな話になってきているんですけど、この子どもの居場所に関して議論をするタイミングというの

は、このタイミングなんですか。それとも、この資料を一通り、全部説明が終わった後で、この居場所に関する議論を進めていくスケジュールなんですか。イメージ的には、この次第でいくと。

○萬羽部会長 今日、割と資料7と、資料8とあって、多分それぞれが、個人的にはかなり関連しているなと思っていたので、それぞれちょっと派生していくのも、つながっているような話が結構今日は多くて、この居場所づくり事業の申請結果をお話した後に、前回の意見・提案シートというのがありまして、そちらも今後の子どもの居場所をどうしていくかということに関する意見になります。

これを受けて、今後、この居場所部会でどういうことをしていくかということをお話合うので、それぞれ関係していくので、多少広がってもいいかなと思いつつやっていたところではあるんですけど、一旦質問が止まりましたら、次に行きまして、またそれで戻ってもいいかなとは思っていたところです。

なので、質問がありましたらあれなんですけど、一旦次でも大丈夫ですが、いかがですか。

○谷村委員 一通り説明を受けてから、トータルの議論をしたほうが、僕はそっちのほうがいいかなと思います。

○萬羽部会長 すみません、ちょっと広がり過ぎちゃったのかもしれないんですが、今のところはちょっと一旦この居場所事業に関しての質問をお受けしたという形になります。

では、この居場所事業に関しての御質問についてはよろしいですか。それでは、資料7に対しての御質問等は終了して、子どもの居場所についての議論に入りたいと思います。

前回の部会では、部会員皆さんから、この部会に参加した動機などを含めて、子どもの居場所について感じていることや、考えていることについて御発言いただきました。その中には、子どもの居場所づくり事業を始める際の困りごとなど、現場の方の意見を聞くような機会を設けてはどうかという話もありました。

あと、本日、資料8として、傍聴者の方からの意見・提案シートも配付していますが、そこにも同様の御意見を頂いております。これが、先ほどの御質問から派生していた内容とかなり近いというか、関連はしてくるんですけども、この辺りについて今後、居場所部会で取り組む事項であるとか、子どもの居場所についてももう少し議論していければなと思っているところです。

この辺りについて、委員の皆さんの御意見を伺えればと思いますが、こちらはまた御自由に御発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○谷村委員

前回の居場所部会でおおよそのガイドラインというか、方針みたいなのを議論してきました、やっていきますというところで、第1回、第2回と、本日進んできたと思うんですけども、結構な範囲で、範囲がすごい広いなどは思っています。そうすると、ある程度どこかでウエートづけをしたほうがいいんじゃないのかなと。薄く広く、何かよく分からないまま終わるよりは、ちょっと重点ポイントというところは出したほうがいいかなと思っています。

例えばの話、僕が個人的に思うのは、緊急度の位置づけ、緊急度、本当に居場所がなく、あしたからどうしよう困っているレベルの方が、何となくどこかに居場所があればいいな、でも、ないから、家で何とかなるなという方というところの、やっぱりレベルというのは違うと思うんです。あしたから本当、困ってしまうというところも、やっぱり優先順位じゃないですけど、緊急度というのはつけたほうが分かりやすいかなと思います。

あと、前回頂いた資料のマッピングされているものがあつたと思うんですけど、居場所事業の、資料5というやつで、横軸で年齢があつて、縦軸で行政関与あり、ちょっとあり、全くなしみみたいな、そんなマッピングがあつて、1個だけちょっと気になったことがあつて、優先順位としてもやっぱり高いんじゃないのかなと思うのは、不登校児童の不登校支援、こちらというのを大っぴらに行政関与はあまりなしと書くのはいかなかなとは思っています。

やっぱりここは積極的に関与すべきところで、上の行政関与ありのところへ上げたほうが、僕は個人的には緊急度も高いし、いいんじゃないかというか、目指すべきところのうちの1つに入れたほうがという意見です。

ちょっとふわっと、いろいろ言っちゃいましたけれども、緊急度を見た上での優先順位、ウエートをつけるということ、あと、不登校支援の行政関与というのを、やっぱりありというほうに持っていきたいなというのが、2つです。

○子育て支援課長

今、委員から御紹介のあつた前の資料なんですけれども、この行政関与なしという表現の仕方、すみません、ちょっと誤解があつたかなと思うんですが、民間事業として、こういうことをやっているところに関しては、行政の関与が入っていないよという意味ということで、表現しています。

不登校支援とは言っていないんですが、行政のほうでやっているもくせい教室、こういったものなんかは、なかなか学校の教室に適応できないというか、行けないというようなお子さんに対する支援策として、教育委員会がやっている事業であるので、ここに不登校という表現はないんですけども、行政としてもそこはしっかりやっていくということで、今、東京学芸大学のほうに場所をお借りして、第2のもくせい教室というか、そういったものも広げてきているところであるので、あまり関与していないというような、これをそういう軸で表現したつもりではないので、ちょっとそこは御理解いただければと思います。

○谷村委員　　といったところでいくと、不登校支援というところを、もう少し組織的に対応しているような絵の描き方というのがあったほうがいいのかなどは思っています。もくせい教室は確かに不登校支援をやられているんだと思うんですけど、それとは別に、このフリースクール、不登校支援もあるよといったときに、一市民からしてみると、何かばらばらで、オーガナイズされている感がないかなと思って。やっぱり、そこら辺のしんがりには行政が持つべきかなとは思っています。

そういうような書きぶりというか、この表自体でそういう書き方に持っていくのは難しいのかもしれないですけど、ちょっと。それでいったら、このもくせい教室というところに、括弧書きで不登校支援全般、全てを、まずはベースとして支援というか、把握をして、支援していくと。その中で、お子さんに応じて適宜フリースクールなり、何なりというところにチョイスするというのは、各家庭とか個人の志向があると思うんですけど、まずもって土台として、どこが把握して支援していくかというのは決めたほうがいいかなとは思いました。

○子育て支援課長　谷村委員に確認なんですけど、この表を今直したほうがいいのかということではないですね。

○谷村委員　　いや、ではなくて。

○子育て支援課長　今後、何かするというときにということですね。

○谷村委員　　この子どもの居場所の全体イメージ、前回頂いた資料というのが、今後多分アップデートされたり、いろいろとされていくものだと思っていて、そのタイミングでやっぱり。

○子育て支援課長　分かりました。もうちょっと、もくせい教室がどんな役割なのかとか、行政が全く関わっていないわけじゃないよというか、そういったところ。

○谷村委員　　どういうふうに関わっているのかというところをもう少し。

○子育て支援課長 見えたほうがいいということですね。分かりました。ちょっと今後、こういったことを使って、何か表現していく際には、その辺り、留意していきたいと思います。ありがとうございます。

○萬羽部会長 今のお話、居場所部会としてはという視点で考えると、以前の提言で出したときにも多分幾つかそういう話もあったと思うんですけど、やっぱり縦割りじゃないですけど、ばらばらとやっていくということが、そう見えてしまうことにもつながるのかなと思ったので、民間がやっているものも、行政がやっているものも、やっぱり一緒にやっていかないとという意味で、提言に上げて、もう少しその辺を強く言えたりできるのかなとちょっと思って聞いていました。

○谷村委員 提言の中で、組織化することということを、たしかうたっているはずであって、そこでばらばらということは、やっぱり目的を果たせていないかなというところは見えてしまうと。

○子育て支援課長 そうですね。なので、まず、一步として、居場所事業を始めたところで、行政も補助金という形で関わっていくというようなことも、1つというふうに考えているところなので、全てを民間に任せていくというスタンスではなく、その不登校も含め、いろいろな居場所の形があるよねというところで、行政が関わってこうということ動き出したというふうには思っているところです。

どういったところが、連携をとっていくことができるのかというのは、不登校に限らず、居場所というこの補助金の活用をしながら、関わりというのは深めていきたいなというふうには思っています。

○宗片委員 多分、今マッピングが、居場所という軸でマッピングしているので、どうしてもばらばらに見えてしまうんですけど、多分対象がどういう子かというときに、不登校の子がというときに、公だったらこれだし、民だったらこれだし。でも、公は抜けているねというのが、今度は分かりやすくなるかなと思って。

これからの議論なのかもしれないんですけど、私も、さっき谷村委員がおっしゃった、どこかに定めないと、この少ない時間の中で何かするのって難しいと。私も理想としては、いろんな子が自由に過ごせる場所がいろいろなところにあるといいなと思うんですけど、なかなか、いきなりそこに到達するのは難しい。やっぱり、今、居場所が本当になくて、どうしようもなく困っている子というところを先にやるというのは、私もちょっと、そこは同じ意見だったりします。

そこで多分、まさに不登校だとか、あと経済的に困難でとかいう話もあったりとかして、じゃ、そういう子に対してはどのような居場所が必要かというので、子ども食堂があるよねとか、学習支援の場所があるよねとかいう話にきつとなっていくのかなと思って。多少、ターゲットがどこなのかというのを定めると、マッピングの仕方もまた変わってくるのかなと、見ていて思ったところです。

何か、過去にもそういうのって、居場所部会はやったんですけど、どういう子がいてとマッピングしたのが。

○谷村委員 結構いろんなパターンを洗い出すというところはやったんですけど、ウエートづけとところまでは行ってないという認識ですね。まずはこれをという重点施策みたいなものは特にやらず、まずは全体のマッピングを確認して、組織化して、中間支援というか、インフォメーション体制を整えるというのが。

○萬羽部会長 あと、やっぱり居場所づくりとして何ができるかという観点で、緊急性が高いものとか、本当に困っている人に対してというのはとても大事なことだと思うんですけど、そこを考えたとき、居場所部会として今後どういうふうにそれを考えていったらいいかというか、何ができるか、その辺りをもう少し話せるといいのかなと。

ターゲットを絞るというのはもちろん大事だと思うんですけど、結局何かを本当に具体的にするのは、多分ここではないところでやることになってしまうので、居場所部会として、そういう方々に向けて何ができるのかなということを考えられるといいのかなと思ったんですけど。

何か御提案とかありますか。

○宗片委員 そういう意味では、やっぱりどういう居場所を必要としているかという話で、さっきの不登校の話ターゲットにした場合でも、多分、お子さんによって、ちょっともくせい教室は駄目とか、学校にもそういう教室が用意されたりとかするんですけど、ちょっとそこじゃというお子さんもいらっしゃると思います。

そういうのを調べたときに、今抜けがあるところはどこでしょうみたいなところを見つけていくとか、そういうアンケートをとると、どうも不登校のお子さんに対してはこういう居場所が足りていないとか、経済的に困窮している御家庭にはこういうタイプがいいとかいう辺りがちょっと見てくるかなと思っています。

それを、以前に喜多先生の御講演の中で、不登校のお話が出たときに、実際お子さんが不登校になっている方がいらっしゃる時に、やっぱり本当に居場所がなくて困っ

ていると。家でもどうしていいかわからなくてといった辺りで、そこはちょっとお子さんの居場所もあるし、保護者の方がやっぱりあって、本人がどうしていいかわからない。どういうところに相談したらいいかもわからないとかっていうときに、じゃ、どうつないだらそこが支援できるのかということ。

本当は行政に用意はあるんだけど、広報がちょっと届いていないのか。そこがどこに問題点があるか、ちょっとわからないですけども、そういうところにちゃんと声が届いて、つなげられるようにするには、どの辺が問題なのかなど。ちょっと話が広がってしまいましたけど、そういう広報するということと、広報した上で、じゃ、つなげるときにどこが足りないかをちょっと調べていくとかいうのは、スタートとしてはあるのかなと思ったりします。

○萬羽部会長　ありがとうございます。そうですね、そういう困り感というか、ニーズを把握するというか、そういうことも必要だなと思います。今現状として、そういう保護者の方々が情報を集めたいとかいうときに、不登校とかの場合はどういうふうになるんですか、広報の視点とか、情報収集とかの視点で。

○子育て支援課長　まずは行政でやっているところということでは、教育相談所を御紹介したり、あとは、いろいろな家庭のお困り事の相談を受けているところが、子ども家庭支援センターというところがあるので、そこでも、民間で不登校の親の会とか、ちょっとそういったものの活動されていらっしゃる方の情報とかがあれば、もちろん、情報提供をさせていただいたりということで、おつなぎはしているかなと思っています。

やはり、皆さんのお声がなかなか直接行政に入ってくるのが難しいというような印象なのかなというふうに思うと、今、中間支援である小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会のほうにもどんなお声が届いているのかというようなことは聞いていきたいなというところはあります。

また、「えにえに」が大変好評だというふうに伺ってはいるので、そういったところで、市民の方のコンタクトも出てきたりしているのかなとは思っているところなんですけど、なかなかちょっと行政だけでは把握できないところを、そういったところと連携して把握ができていけるといいかなというふうには思っております。

○宗片委員　今のお話で、最初に不登校だったりすると、先生に相談とか行くと思うんですけど、そういう情報というのはどこかに集約されるんですか。学校ごとになってしまうんですか。やっぱりそういう声をまとめたときに、全体としてこういうのが必要だねとかいう

話に今度進んでいくような気がするんですけども、学校単位で処理されちゃうと、上に上がっていかないと、先生頼みというか。

先生が駄目だと、どこに行ってもいいか分からないみたいな話になりそうかなと。

○子育て支援課長　そうですね、学校では、当然長期の欠席の方の把握というのはされていると思いますし、それでもくせい教室に御案内されている方とか、そういったところも把握はされていると思います。なので、もくせい教室の拡充というところも、施策として出てきているところではあるので、全く把握していないということではないとは思いますが、いろいろな御家庭での考え方とかもあるとは思いますが、そういう行政がやっているところではないところに行きたいというようなお声もあるかもしれないので、それをどういうふうにするかというのは、なかなか難しいところかなというふうには思っております。

そういった意味では、この居場所という事業を始めたことは、1つ、民間の方のいろいろな活動をサポートすることで、不登校も含め、今、皆さんがおっしゃっていただいたような、やっぱり子ども食堂が必要かなとか、大人と関わる、学習の支援をしていただける場所があるといいなというようなことに関わりの1つに、行政が支援することで、市民の方に還元できていけるんじゃないかなというふうには思っております。

○宗片委員　行政が支援するということで、小金井子育て・子育て支援ネットワークとかと結構関係を築かれていると思うんですけども。これ、ちょっと不登校の保護者の方のお話を聞いていたりとかいったのと、前回、栗田委員のお話の中で、ウェブとか、SNSとかでつながるだけでもいいんじゃないかという話があつて。

ちょっと物理的な居場所はなかなか難しいですけども、例えば「えにえに」のサイトみたいなところで、保護者同士がつながれるところとかがあると、必ずしも行政と保護者をつなぐのが必要なわけではなくて、保護者同士でつながっているだけでも情報交換とか、お互いに問題を共有し合って、解決策とかも見えてくるのかなとか思うと、「えにえに」とかのサイトでもしそういうのがつながれるものができるんだしたら、そこに対してそういうのを、SNSをつくるための補助金を支援するとかいうやり方もあるのかなと、ちょっと思いました。

ということで、必ずしも物理的な居場所でなくてもいいなと、確かに栗田委員のお話を伺って思ったこと。そこはやっぱり、子どもの居場所というのも大事ですけど、保護者の方もやっぱり悩んでいて、保護者の方同士がつながれるという場所というのもあ

るといいんだろうなと思いました。

○萬羽部会長 御意見として、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○谷村委員 なかなか慣れないですが、宗片委員がおっしゃられていることの、やっぱりニーズと
いうところとか、そこの実態を把握するということの重要性とか、難しさとい
うのはどうしてもあるのかなと思うんですけども。同じような悩みを持っている自治
体って、いっぱいあったりしないんですか、今、小金井だけに限ったお話をしています
けど、例えばどこかの市町村で同じような事例があります、居場所に困っていますと。

そんなときに、どういう施策を打って、どういう効果があつてとかというような、そ
ういう情報というのは、市として情報収集されていたりということはないんですか。
というのも、やっぱり子ども・子育て会議の本体のほうでも、ちょっと思うのは、いろ
んな施策があつて、市の中でアンケートをとって、よかったね、丸だね、三角だねとか
いう評価はあるんですけど、やっぱり周辺自治体も多分同じようなことはやっていて、
どういう施策が実際にどういう評価をされて、よかったか、悪かったかというのは、周
辺自治体を見て、盗めるところは盗んで、失敗したのは、あれは、あそかが失敗したな
とかというような情報収集があつたほうがいいんですけど、そこら辺はあまり今まで聞
こえてこなかったんですけど、そのような体制というのは取られていたりはしないん
でしょうか。

○子育て支援係長 我々もこの子どもの居場所づくり事業補助金をやるに当たっては、ホームページ
等々、いろんな各自治体、これは区市町村レベルだけではなくて、都道府県レベルで主
体となつてやっているところもありますので、そういったところを参考にしながらやっ
ておりますので、必ずしも小金井市が進んでいるということではないんですが、我々も
遅れないように進めているところかなというふうに感じております。

○谷村委員 例えば、アンケートを1つとるにしても、周辺自治体で同じアンケートを全部とって
いたら、結構その評価っていろいろしやすいと思うんです、効果があつたか、なかつた
かと。小金井市だけの独自のアンケートで、小金井市だけの事業をやつて、小金井市だ
けの評価をするよりも、小金井市と同じアンケートをほかの市町村がとっていて、事業
をやつたときに、ここでは効果があつたけれども、ここでは効果がなかつたというとこ
ろを含めて、総合的、多面的に見れるようなところがあると思うんです。

なので、そういうところも含めて、アンケート1つ作るにしても、周辺自治体と協
力できたらしたほうがいいのかと思います。地域性というものもあるとは思いますが。

地域性はあるにしても、でも、特段効果が上がった事業というのは、ほかの市町村であつたら、ああ、うちの市でこのポイントで困っているところには、あそこの市町村のあの事業というのがマッチしそうだということが、マッピングでもすごい分かりやすくいけると思うので、そういうような話が進めばいいなど。

我々としても、こういう子ども・子育て事業に関する会議というのは各自治体もやられていると思うんですけど、そういうところで相互交流みたいな話とかもできれば、また違った見方、違ったやり方というのができるのかなと。

子育て委員も長い方とかも、結構長くなってきちゃっているので、弾力性がだんだん失われていくのが自分でも怖いので、ああ、そういうやり方もあるなというので、拡張性があると。

○宗片委員 私もやっぱり、もし他市の成功例があつたら、丸パクリでもいいかなと思っているので、お金がかからないやり取りがあるのだったら、それもありがたかと思つて。ほかの区はどうなっているのかなとか見ると、豊島区とかだと、空き家を活用してほしいオーナーの人と、NPO法人を区がつなぎ、リフォームのお金、200万まで上限で補助しますとか、あと、廿日市だと、そういう空き家を提供してくれる方には、固定資産税を減免するとかというのはやっぱりやられていて。

予算があるかどうかの話になってしまうんですけども、やっぱり行政がちょっと間に入って、空き家を提供すると、いいことがあるよというのがあると、空き家のオーナーの方も、中にはやっぱり、もしそういう地域貢献で使えるんだつたら、ぜひ使ってもらいたいという方も中にはいらっしゃると思うので。

そこに、急にNPOとか民間の方が話をしに行つても、なかなか拒否感、抵抗感があるのかなと思つております。そこに、一旦行政に入つていただくというだけでも、場所が活用できるんじゃないかなと、やっぱりちょっと思うところがある。そういうところのお話を聞きに行つて、じゃ、小金井市だったらどういふふうにやればいいのかと、参考にはなるのかなと。

物理的な居場所はなかなか難しいという話であれば、不登校みたいな話とか、保護者とか子どもをつなぐためにはどうしたらいいという成功例が、もし本当にあるんだつたら、その話を聞いてみて、それを丸パクリでもいいかなと思つています。

○萬羽部会長 確かに、他市の事例とかをもっと深く知れるといいけれども、予算的にそれができるのかどうかというところもあるので。

○谷村委員 取りあえずばばっと、どこが効果が上がるか、上がらないかよりも、取りあえずいっぱいというところが目標になっていることを。でも、逆にちょっとそこで僕は個人的に思うのは、子育て支援事業をざっと、すごいいっぱいにする中で、ずっと多分苦戦しているのは、スクラップ・アンド・ビルドのスクラップを苦戦しているのかなと思っていて。一度予算がついてしまった、補助金がついてしまった団体に、後から取り上げるのって結構な労力がかかると思うんです。

今までもらえていたのにもらえなくなったというのは、似たような話が昨今、大盛り上がりしているような中でいくと。そうすると、どこかの段階である程度効果を含めて組織化していかないと、いっぱい配るだけ配っちゃって、来年度以降とかも、多分それを頭の中に入れて、団体さんも動かれると思うのでというところは気をつけたほうがいいかなとは思っています。

○子育て支援課長 私たちもこの補助金を始めて、どのぐらいのところが手を挙げてくださるかというのを、本当、模索中で、思ったより、やりたいという人の思いがあるんだなということで、今回、補正もしました。

おっしゃるとおり、じゃ、増え続けて、どこにも出しますということになるのか、週一、二回で開くところばかりがいいのか、それとも、四、五日やったださる団体さんがいいのかというようなどころもありますので、この補助金の在り方というところもちょっと検討していきたいなというふうには思っています。

初めのときにも、使い勝手がいい補助金なのかということとか、そういうこともありまして、今後限られた予算になっていったときに、応募していただいて、今年は10団体に出しますとか、予算の範囲内で補助金を出しますというような形にもなってくるかと思うので、さっき何をテーマに絞っていったらいいかなというお話があったんですが、この前回の指針でもあったように、今後の取組としてこの始めた1つを検証して行って、居場所というのをつくっていく上で、この補助金をどういうふうにしていったほうがいいのかというような御意見も頂けたりとか。そういったことも1つポイントで、この中の議論の中で絞っていただいて、話していただくテーマにはなるのかなと思っております。

あと、その事業効果というのが、すぐ目に現れるかということ、なかなかこの居場所なんかは出にくいものかなとは思っているんです。子どもたちが近所のあそこにちょっと居場所があって、そういうふうに行ける場所があったという、子どもの時期の環境、そ

れが後々になって、社会に還元してくるということもあると思います。

これだけ投資したんだから、これだけの効果というのは、なかなか全部、全て行政、それができるかという、難しいところはあるなというふうに思っています。

○古源職務代理 今、議論の中で課題がすごくいっぱいあるんだなということに気がついたんです。ターゲットを絞って進めていくという手法もありますよというお話があったんですけど、先ほど事務局のほうから、とにかく居場所を増やしていこうという話もありましたよね。

私、ちょっと縦割りの違う部局の違う事業の話なんですけれども、放課後子ども教室という事業があって、これに関しては、令和5年度、来年度から全ての小学校で週5日の開催予定になっています。そこに至るまでに、9校で週5日開催するとなるまでに10年かかっているんです。

小学生がいらっしゃる方は、皆さん、御存じだと思うんですけども、各学校によってばらつきがあって、それこそ週2日、室内の教室をやっているだけの学校、それから、週4日、校庭開放をやっている学校、いろいろあったんですけども、やっとな来年度から週5日の居場所というのが学校の中で確保されていくことになります。

それには、先ほど皆さん、おっしゃったみたいに、やはり予算がついたからです。でも、それには10年かかりました。そういうことを考えていくと、やっぱり時代背景とかがあって、子どもの居場所が必要ですよということは、確実に皆さんの中に周知されていると思いますので、居場所を増やしていくという方向性がここで指針として出されているわけですし、そのことを進めていくための方向性、方策というのが、私たちの中で何か助言をしていけたらいいのかなと思いました。

あと、先ほど来、補助金事業として今進めているというお話だったんですけども、補助金以外の行政の支援というか、この事業に対する推進するための方策とは何かなと思ったんですけども、やっぱり場所の確保ですね。場所の確保に関して、どういったことが行政として進めていけるのかなというのと、それに関して、誰だったり、何がパートナーになっていって、そして、他市のお話も先ほど出ましたけれども、そういったような何か具体的な方策がもし出していただけようだったら、そういった方向性も、お金以外で考えていけたらいいかなと思いました。

それと、先ほど来の不登校支援の話なんですけれども、施策としてという部分に関しては、施策というのかしら、教育委員会だったり、方針として、それぞれの子どもに対

応じて居場所を見つけるということで、今やられていると思うんです。その先の受皿がどこなのかという話ですよ。それがもくせい教室なのか、フリースクールなのか、それとも家庭なのか、いろいろあると思うんですけども、その中で、私ちょっと「えにえに」で見たんですけども、やはり平日の10時から14時まで子どもを見ますよというような団体も実際あるんですよ。

そういうことって、やっぱり知らないじゃないですか。私は見て分かった。けども、平日に子どもを見ますよということは、すなわち所属しているどこかに行けていない子がいるということだから、そういう団体があって、活動しているよというような話が、例えばこの部会なりで来ていたりとかすると、子どもたちにアンケートをとらなくても、例えばなぜその団体、その施設を利用しているのかとかいうお話が聞けたりとか、そういう広がりにもなっていくのかなというふうに、ちょっと思ったところです。

なので、本当だったら、見に行きたいですね、そういう団体を私たちも、どんな活動しているのかなということを。そういうことがなかなか部会活動としてできないとするなら、どなたかに来ていただいてお話を伺うというようなことってできるのかなというふうに、ちょっと思ったところです。

○萬羽部会長 補助金とはなっているけど、補助金というのはお金だけの話じゃなくって、やっぱりどういうふうに進めるかという、場所の提供であるとか、あと、こういうものを周知するとか。あと、始めようとしていた方がどういうことに困っているのかとか、そういうのも含めてのこの事業だと思うので、予算とか費用対効果も確かに気になるころではあるんですけど、それだけじゃない。こういう居場所を増やしていくための課題感みたいなところをもう少し具体的に聞いたり、それによってこの事業自体を見直せたりするといいいのかなと、私もちょっと思ったりはしましたが。

何か実際に、その辺りで今回、申請された方とかにちょっと聞いてみるとか、そういう方法というか、何かありますか。

○子育て支援課長 そうですね。まず今回、応募していただいた団体さんの中に、新規団体の1つで、水津委員が関わっている団体があるんです。まちばのCo-Laboratoryというところがあるんですが、自由な居場所ということで始められた団体なんです、ここに水津委員が関わっていらっしゃるということなので、水津委員は小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会のほうもやっついていらっしゃるし、活動されていて、どんなお声が聞こえてきているのかとか、団体としてどういうふう感じているのかとか、そ

ういったところを交えてお話しいただけるということで、すぐにお話ししたいということであれば、こちらのほうとしても頼みやすい団体さんかなというふうには思っておりますので、そこについてはお願いできるかなというふうに思っております。

○萬羽部会長　そうすると、例えば次のときとかに水津委員に御意見を頂いたり、あと、あした以降、いろいろな団体さんの御意見を聞いてくるだったり、様子を見られるということだったので、その辺りの情報収集をまずしていただいて、例えばその次に、もしチャンスがあるならば、何かもう少し、今度は利用者に近い側の御意見を聞いたりするというようなこともできたら。

確かにお話を伺ってみたりしたいなとは思いますが、それが実際にこの部会としてできるかどうかというのが。

○子育て支援係長　あとは、逆算になるんですけど、令和5年8月末までが皆さんの現任期ですので、多分、前期居場所部会にいらっしゃった委員は御存じだと思うんですけど、何回かいわゆる報告書じゃないんですけど、まとめるのに時間がかかっていたというところもあるので、ちょっとその辺で、どこまでといったところは御相談の範疇になってくるかなという気がします。

また、子ども・子育て会議の本体会議のほうで、これから説明していく中身になりますので、まだ皆さんにはお伝えしていないところなんですけど、もう次回以降、第3期目の子ども・子育て支援事業計画策定のための、いわゆるアンケート調査だとか、そういったところは次年度以降始まっていく予定です。

そういったところで、例年でいきますと、いわゆる計画の進捗確認が、1年間の主のいわゆるメインの業務といったところで、あとプラスアルファのところ、部会なりの活動で進んでいます。次年度に関しましては、今の任期の委員さんの方々にどこまでお願いするかというのは、国のほうの動きを見ながらになりますが、のびゆくこどもプランの、いわゆる3期目の計画策定のための作業といったところも入ってくる可能性がございますので、そういったところも見つつ、部会として令和5年8月末までの任期の中で本体会議のほうに報告を上げていくというので、前回のときは、まずは第1弾の中間報告を上げて、また引き続き審議しますということで、最終的に部会として報告を上げていただいたかなと思いますので、いろいろな方々の御意見を聞いていただくのは全然いいかとは思いますが、ちょっとその時間的なところを逆算すると、結構タイトな形になろうかなと感じております。

○萬羽部会長 次回に関しては、一旦その居場所事業の取組をされている団体さんからちょっと状況を聞いてみて、調査するというごことをお願いします。

では、事務局から一度、運営をされている水津委員に御確認いただいたり、部会への出席が可能であれば、お話を伺える機会を持てればと思います。

最後に、次回の予定について、連絡事項等をお願いできますか。

○子育て支援係長 次回は、1月もしくは2月を予定しておりますので、後日改めてメールにて日程調整させていただければと思います。また、開催日直前の感染状況等によりウェブ開催の御相談をさせていただく場合がございますので、御了承ください。

事務局からは以上です。

○萬羽部会長 ありがとうございます。ウェブ開催になったら、今日みたいな会話はどうなるのかなと。やっぱり対面でやれるほうがお話ししやすいなと思いましたが、またちょっと状況を見てということをお願いします。

では、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

— 了 —